

別董大

董大に別る 高適

十里黄雲白日曛

十里の黄雲 白日曛る

北風吹雁雪紛紛

北風 雁を吹いて 雪紛紛

莫愁前路無知己

愁つる莫かれ 前路に知己なきことを

天下誰人不識君

天下 誰人か 君を知らざらん

空には、十里のなたまでも重苦しい黄塵が立ち込め、輝く太陽さえ、暗く淡い。北風は空ゆく雁を激しく吹き送り、雪は粉々として降りしきる。君よ、これからの旅路に親しい友がいないなどと嘆くには及ばない。天下に君の名を知らぬ者は、一人としていないはずではないか。

高適 七〇七?~七六五?

字は達夫(仲武とも)。忠と諡される。滄州渤海(山東省浜県)の人。有道料に推挙され、封丘の尉となる。左拾遺、監察御史、諫議大夫、淮南節度使等をへて、成都の尹、劍南西川節度使となる。後、刑部侍郎、散騎常侍から渤海侯に封ぜられ、没後、礼部尚書を贈られた。性格は豪放闊達、任侠放浪の生活から学問に進み、五〇歳にして初めて詩を学んだともいう。辺塞詩にすぐれ、沈痛慷慨の詩風は、岑参と並んで「高岑」と称された。『高常侍集』八巻がある。(巻二二一、3-2189)